

排泄支援機器関連事故の事例 ～NITE事故データベースより～

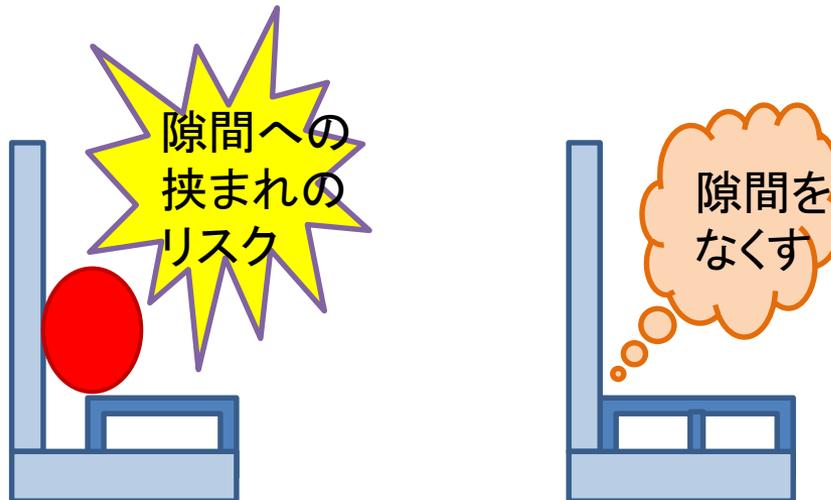
ロボット 介護機器開発・導入促進事業
基準策定評価コンソーシアム
本間 敬子(産総研)

事例の抽出方法

- (独)製品評価技術基盤機構(NITE) 事故情報データベースを使用
<http://www.jiko.nite.go.jp/php/jiko/index.html>
- 以下のキーワードで事故情報を検索
「トイレ」「便器」「便座」「便所」「排泄」「排便」「排尿」
- 延べ514件のうち、重複等を除いた155件から、排泄支援機器のリスクアセスメントに有用と考えられる事例を抽出

挟まれ

- 調査した範囲では、死亡2件、重傷2件が報告されている
 - ポータブルトイレ3件、跳ね上げ式肘掛付便器1件
 - 頸部の挟まれ3件（全てポータブルトイレ）、腕の挟まれ1件（肘掛付便器）
 - 保護方策：背もたれと手すりの間に隙間を設けない設計



火傷

- 温水洗浄便座使用時の低温火傷：調査した範囲では5件の報告があった
 - 機器の動作は正常 3件
 - 禁忌の不徹底 2件
 - 使用中の意識消失 1件
 - サーミスタの異常 1件
 - 「使用者が高温に気づかない」という要因と複合
 - 原因不明 1件

火災

- 原因の例
 - 不適切な製造
 - 部品不良、はんだクラック、コードの挟み込み等
 - 不適切な設置
 - コードを折り曲げた状態で使用等
 - 不適切な使用
 - ほこりの蓄積
 - 機器内部への洗剤、水、尿等の浸入
 - 経年劣化
 - モータ固着、部品の破損、ケースの亀裂による液体浸入等
- 「不具合のある状態で使用を継続する」という要因と複合しているケースが少なくない

ご清聴ありがとうございました